

# 平成26年3月期決算説明資料

---

平成26年5月

株式会社セブン銀行



ハイライト	2頁	財務の状況【単体】	8頁
損益状況【単体・連結】	3頁	配当政策	9頁
損益状況【単体】	4頁	今後の取組方針	10頁
ATM利用件数と受入手数料単価の推移	5頁	ATM事業の拡充	11頁
ATM台数と平均件数の推移	6頁	口座サービス（海外送金拡大）	14頁
口座サービスの状況	7頁	海外事業展開	15頁

※決算発表資料は、当社Webサイトからもご覧いただくことができます。  
[\(http://www.sevenbank.co.jp/ir/library/presentation/\)](http://www.sevenbank.co.jp/ir/library/presentation/)

本資料には、株式会社セブン銀行、及びその連結子会社の業績に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、具体的な歴史的事実を除き、本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を置いています。これらの記述及び前提（仮定）は主観的なものであり、かつ、様々なリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想等とは異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、システム障害、災害、犯罪、その他ATM事業及び金融サービス事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社、及びその子会社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。

## 2013年度決算

### [ 単体 ]

#### ■ 経常収益 998億、経常利益 371億と3期連続の増収増益

- ・ ATM設置台数は19,500台を突破、一部提携銀行の顧客手数料有料化の影響から利用件数の伸びは鈍化したが、ATM受入手数料は、ほぼ計画通りで着地
- ・ 海外送金件数は年間39万件、ローン期末残高は52億円と伸長

### [ 連結 ]

#### ■ 経常収益 1,055億、経常利益 357億

#### ■ 配当は、期末4.00円、年間では7.50円(0.50円増配)

## 2014年度の見通し

#### ■ ATMビジネスの更なる拡大、口座関連ビジネスの成長により増収増益を見通す

- ・ ATM設置台数は純増約1,500台、2015年3月末に21,000台へ
- ・ 海外送金サービス年間60万件、個人向けローンサービスは期末残高75億円を計画

#### ■ 北米、インドネシアでのATM事業を着実に進める

#### ■ 配当は中間、期末各3.75円、年間7.50円を予定

《 セブン銀行単体 》

(単位:億円)

	13年度 通期実績	14年度計画	
		通期	上期
経常収益	998	1,049	521
経常費用	626	674	331
経常利益	371	375	190
当期純利益	223	241	122

注1) 計数は全て表示単位未満切捨て

注2) 連結損益の為替レートは、2013年度を1米ドル=97.73円、2014年度計画を同102.00円にて換算

《 連結 》

(単位:億円)

	13年度 通期実績	14年度計画	
		通期	上期
	1,055	1,132	561
	698	767	376
	357	364	184
	212	231	116

《 各社連結対象期間 》

	セブン銀行	FCTI NATIONWIDE ATM NETWORK
2013年度通期	2013年4月～2014年3月	2013年1月～12月

# 損益状況【単体】

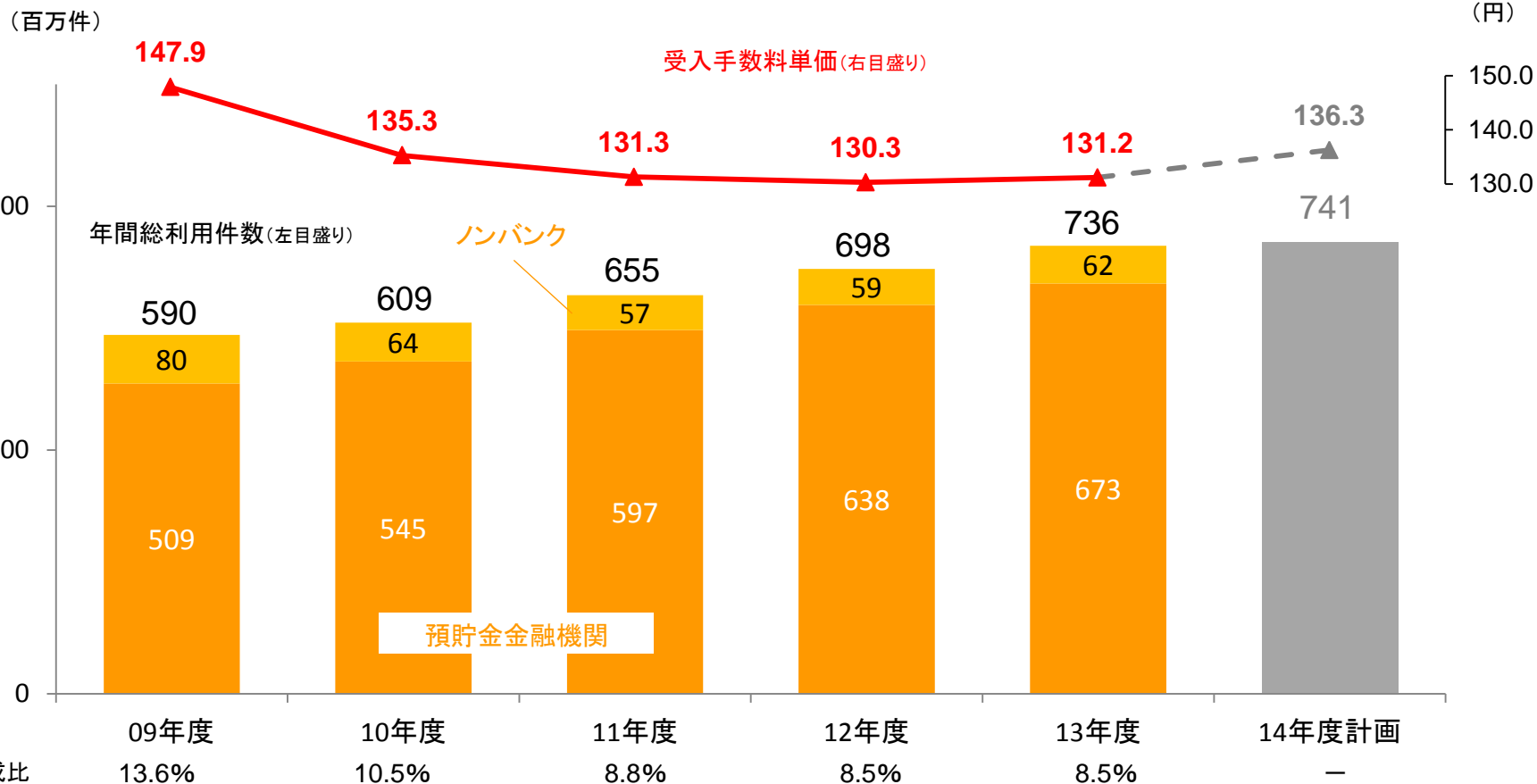
(単位:億円)

	12年度 通期実績	13年度実績			14年度計画			
		修正計画 (2014年2月)	通期	前年差異	通期	前年差異	上期	前年差異
<b>経常収益</b>	<b>941</b>	<b>990</b>	<b>998</b>	<b>57</b>	<b>1,049</b>	<b>51</b>	<b>521</b>	<b>22</b>
うちATM受入手数料	888	935	943	55	988	45	492	19
<b>経常費用</b>	<b>620</b>	<b>620</b>	<b>626</b>	<b>6</b>	<b>674</b>	<b>48</b>	<b>331</b>	<b>29</b>
うち資金調達費用	16	-	18	2	13	△ 5	6	△ 3
うちATM設置支払手数料	106	-	113	7	116	3	58	1
うち業務委託費	158	-	163	5	167	4	82	0
うち保守管理費	39	-	37	△ 2	36	△ 1	17	△ 1
うち土地建物機械賃借料	9	-	6	△ 3	9	3	4	1
うち減価償却費	138	-	116	△ 22	156	40	73	19
<b>経常利益</b>	<b>320</b>	<b>370</b>	<b>371</b>	<b>51</b>	<b>375</b>	<b>4</b>	<b>190</b>	<b>△ 7</b>
特別損益	△ 5	△ 9	△ 10	△ 5	△ 1	9	△ 0	1
法人税等合計	119	137	138	19	133	△ 5	67	△ 7
<b>当期純利益</b>	<b>195</b>	<b>223</b>	<b>223</b>	<b>28</b>	<b>241</b>	<b>18</b>	<b>122</b>	<b>1</b>
期末ATM設置台数(台)	18,123	19,500	<b>19,514</b>	1,391	<b>21,000</b>	1,486	20,300	1,456
ATM受入手数料単価(円)	130.3	-	<b>131.2</b>	0.9	<b>136.3</b>	5.1	136.4	7.0
平均利用件数(件/台/日)	111.1	107.6	<b>107.8</b>	△ 3.3	<b>100.5</b>	△ 7.3	101.7	△ 9.6
総利用件数(百万件)	698	735	<b>736</b>	38	<b>741</b>	5	369	△ 5

注1) 計数は全て表示単位未満切捨て

注2) 前年差異は億円単位(総利用件数は百万件単位)で比較

- 13年度総利用件数は前年度比 +5.3%の736百万件
- 預貯金金融機関取引 +5.3%、ノンバンク取引 +5.6%



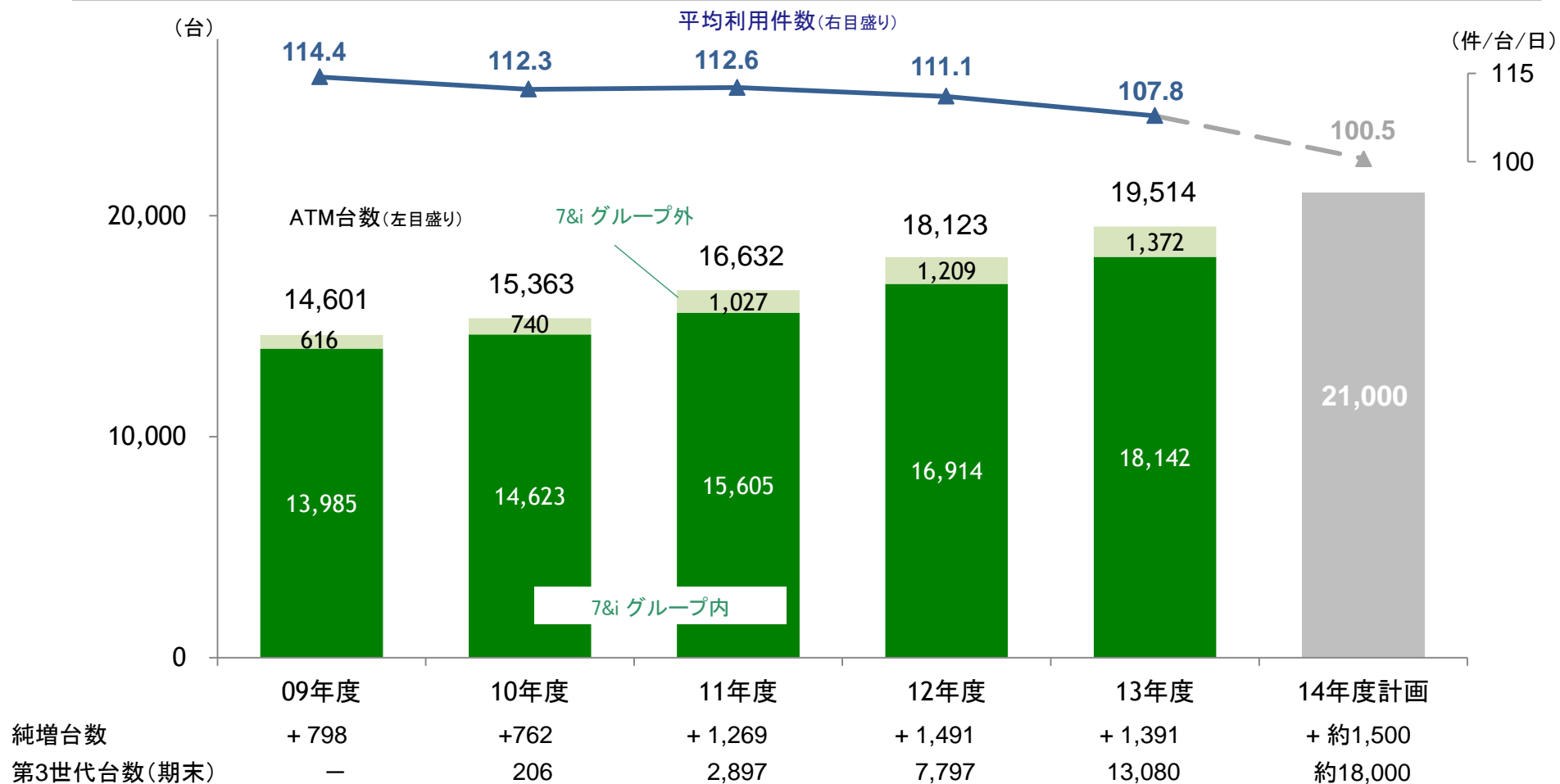
注1) 総利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を含まず

注2) 計数は全て表示単位未満切捨て

注3) ATM受入手数料単価は、ATM受入手数料 ÷ (総利用件数 - ATM受入手数料収入を伴わない利用件数<売上入金等>) で算出

注4) 本資料におけるノンバンクは、証券会社、生命保険会社、クレジット会社、信販会社、消費者金融会社等の合計

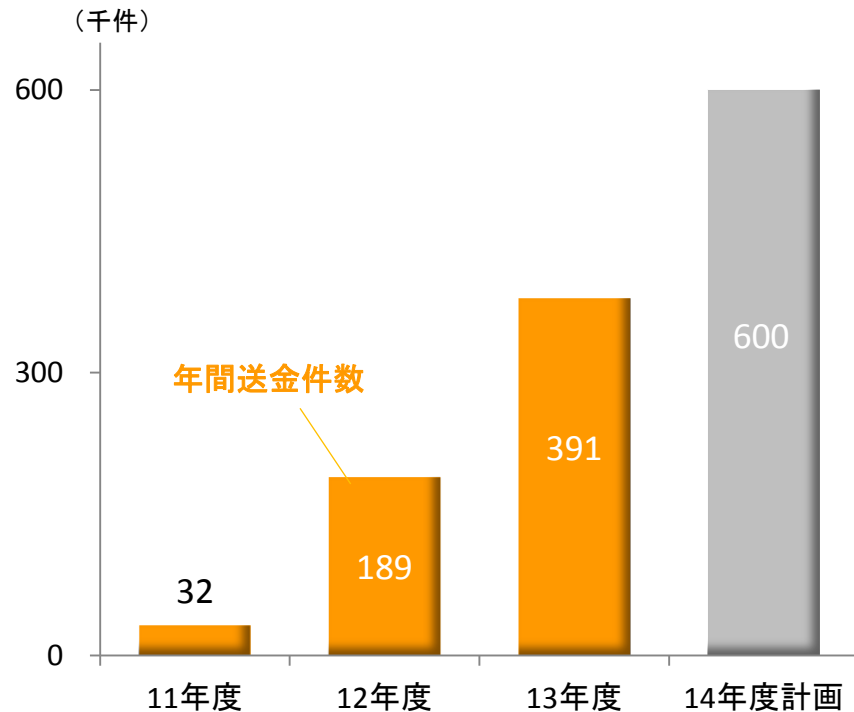
- ATM台数はグループ内外とも順調に増加
- 14年度は純増約1,500台



注1) 平均利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を含まず  
 注2) 計数は全て表示単位未満切捨て

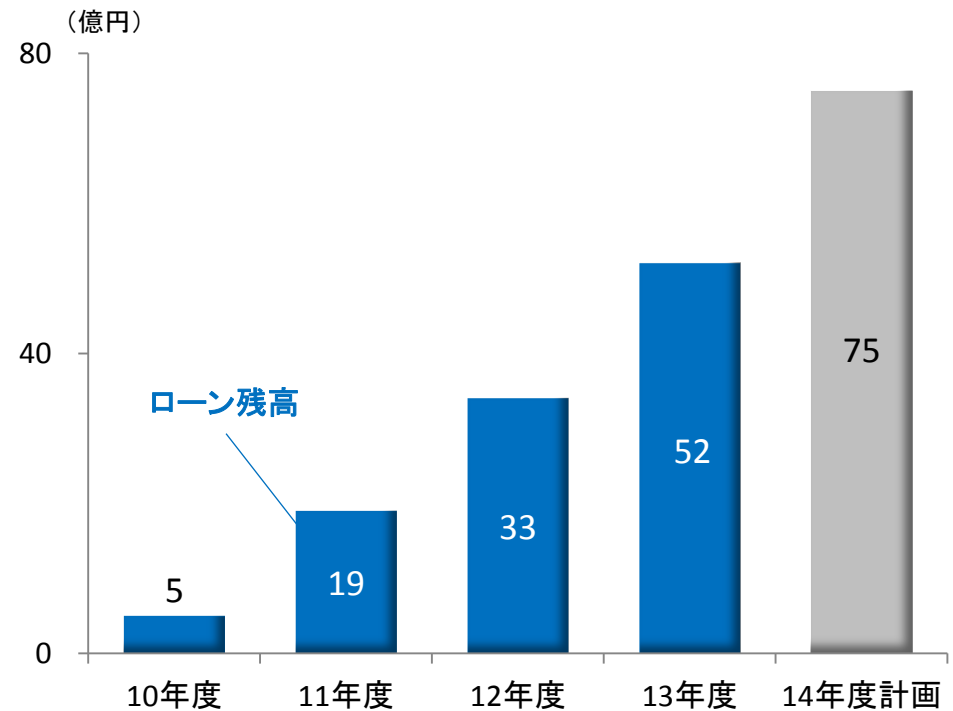
海外送金サービス

- ・ 13年度は送金件数391千件と前年比倍増
- ・ 目標である送金件数年間100万件(収益規模20億円)に向け営業を強化



個人向けローンサービス

- ・ 低コストで効果的な顧客アプローチによりローン残高は着実に増加
- ・ 効率的な運営に努め、さらに黒字を積上げる





## 貸借対照表(2014年3月末)

(単位:億円)

現金預け金 5,044 ①	預金 4,375 ④
有価証券 1,103 ②	社債・借入金 1,360
ATM仮払金 927 ③	ATM仮受金 409 ⑤
その他 779	その他 198
	純資産 1,511

資産 7,853

負債+純資産 7,853

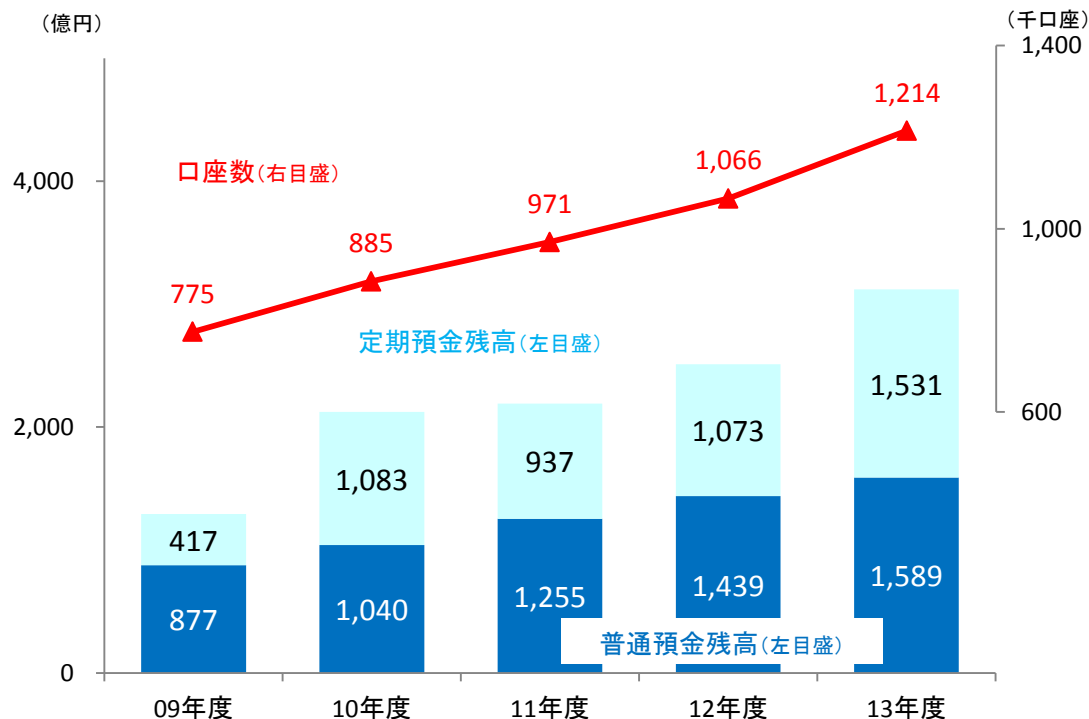
- ①主にATM装填用の現金
- ②主に為替決済、日銀当座貸越取引の担保
- ③ATMの出金に伴い一時的に発生
- ④うち個人預金:3,121億円、法人預金:1,252億円
- ⑤ATMの入金に伴い一時的に発生

注) 表示単位未満切捨て

## 高い財務健全性と信用力

単体自己資本比率(国内基準) 54.93% (速報値)  
 格付(2014年3月末現在) S&P AA- (長期発行体)  
 R&I AA (発行体)

## 個人の口座数と預金残高の状況



方針

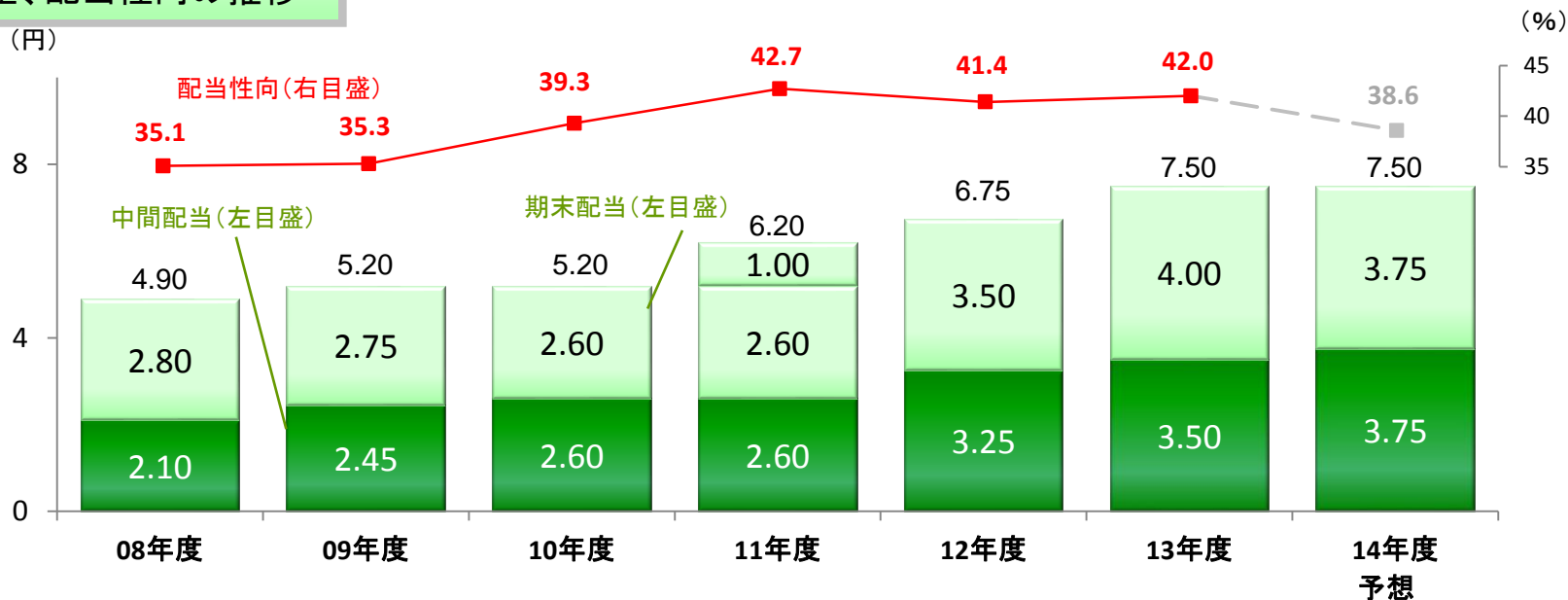
継続的な安定配当を実現。連結配当性向は年間35%を最低目標に、年2回の配当を実施

配当実績・予想

13年度： 期末を4.00円に引き上げ、中間と合わせ年間7.50円(配当総額89億円)

14年度： 中間・期末ともに3.75円、年間7.50円(配当総額89億円)の予定

配当金、配当性向の推移



注1) 2008年度から、中間・期末の年2回配当実施

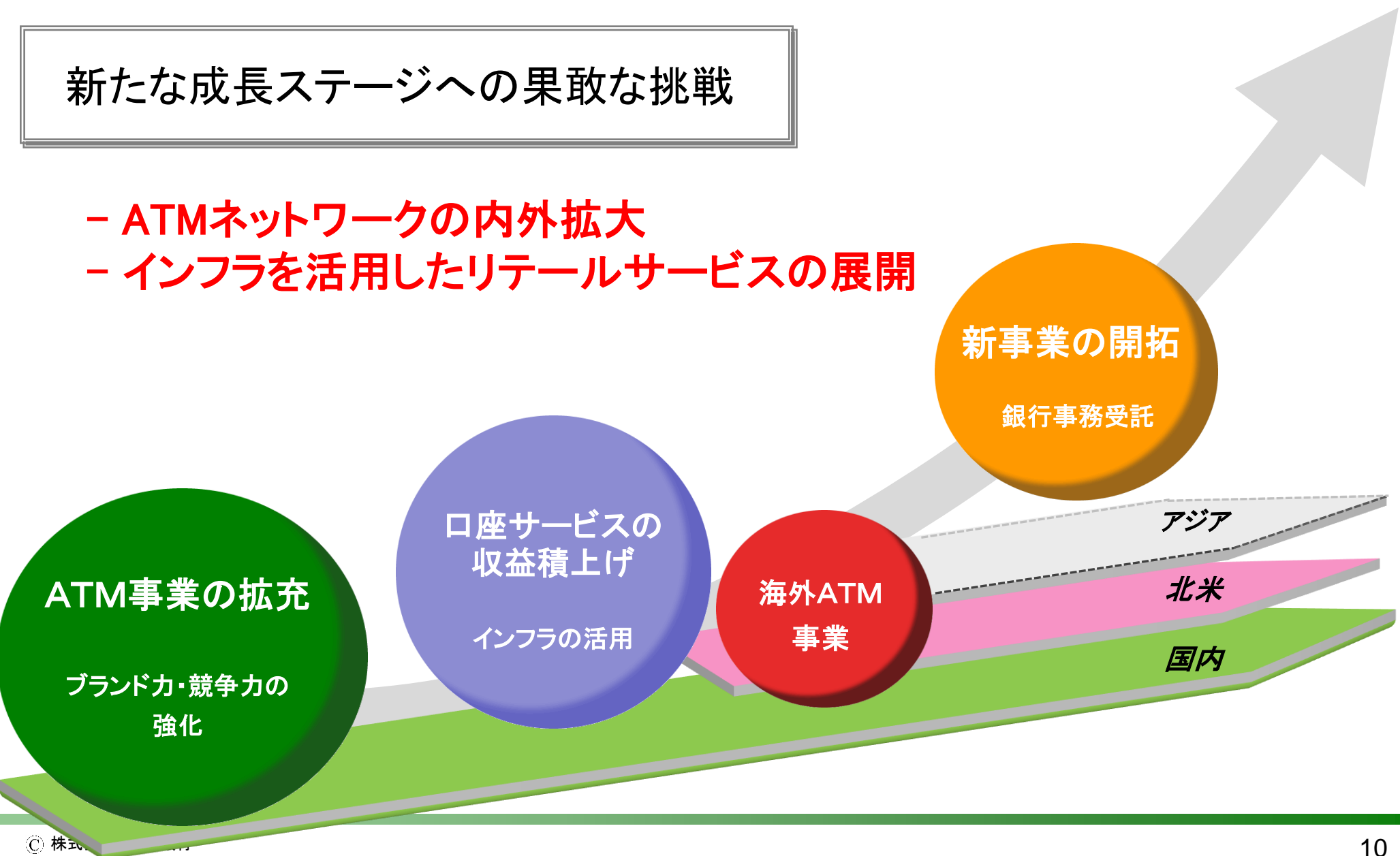
注2) 2011年12月1日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割を実施しており、上表は、過去の配当についてもこの分割を反映して計算したもの

注3) 2011年度は期末配当に1.00円の東証上場記念配を上乗せ

注4) 2012年度以降は連結決算

## 新たな成長ステージへの果敢な挑戦

- ATMネットワークの内外拡大
- インフラを活用したリテールサービスの展開



## 利便性を追求した第3世代ATMの展開

- ・ 2013年度末で2/3が新型ATMへ
- ・ 2016年度迄に全台入替完了



13年度末  
第3世代ATM設置台数  
上図：橙(既入替済み)

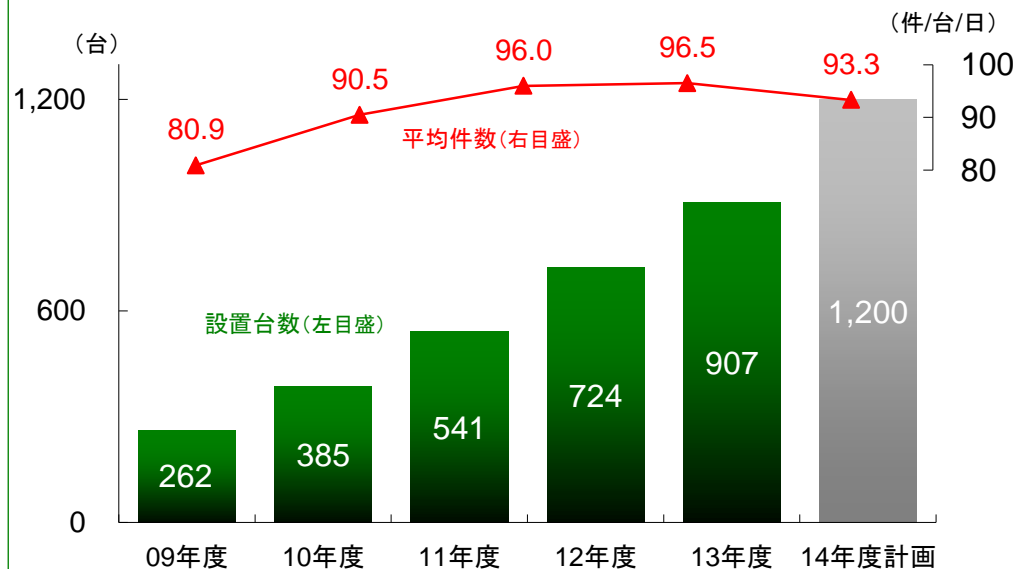
**13,080**



《 第3世代ATM 》

## グループ外設置(除く証券会社)の拡大

《 期末設置台数・期中平均件数の推移 》



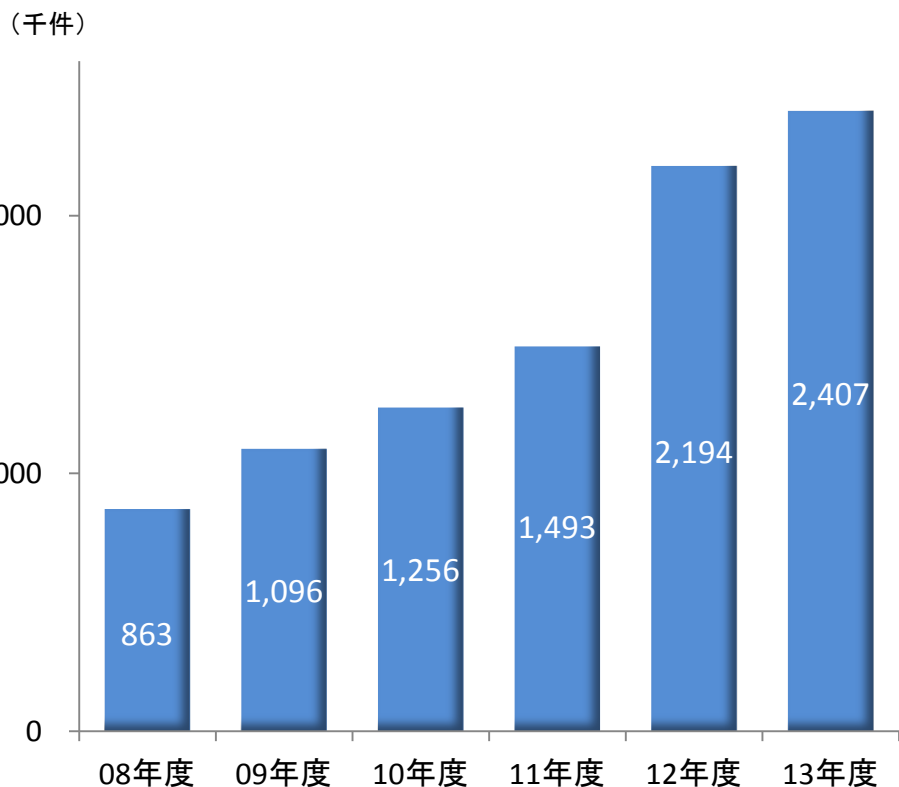
《 設置場所の内訳 》

(単位:台)

	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
空港	30	30	33	36	36
駅・交通系	61	71	84	98	138
商業施設	115	196	298	417	539
その他	56	88	126	173	194
合計	262	385	541	724	907

- 海外カード利用件数は3年で倍増
- 流通、観光、交通 ⇒ 外国人向けATMサービス ⇒ 近くて便利なATMの増加

### 海外カード利用件数推移



### 利用可能なブランド一覧



※MaestroのICチップ付き一部カードは当分のあいだご利用いただけません

### 海外カードでも使いやすさを追求

#### 取引画面は4言語対応

・英語、韓国語、中国語、ポルトガル語に対応、明細票や音声も

ATMからのお問い合わせにはいつでも英語で対応



- 2014年度のグループ外設置は300台(昨年度218台)を計画
- 首都圏だけでなく関西圏でもATM設置を強化

首都圏での更なる展開

今春、東京メトロ全駅の1/3(57駅)に74台設置

・東京メトロ 葛西駅



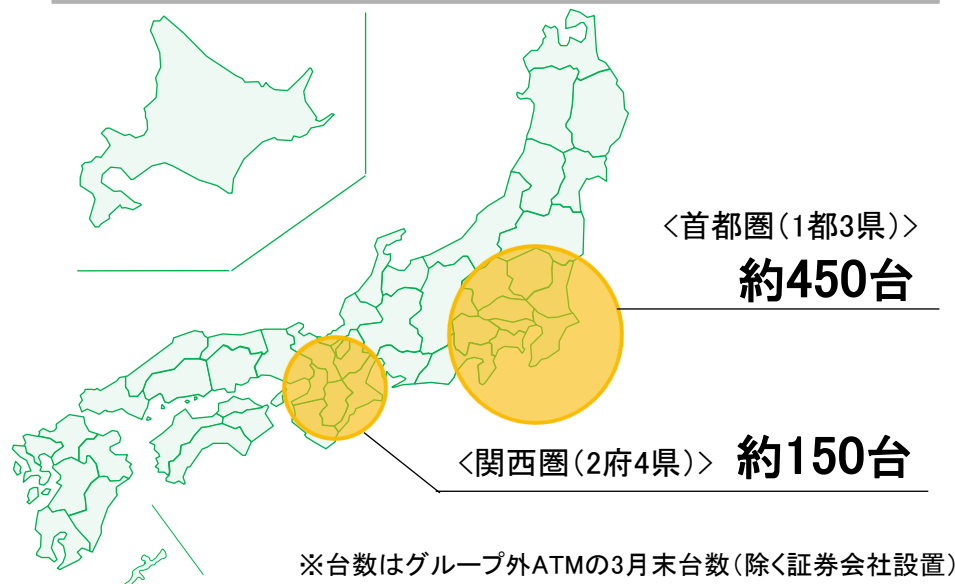
・東京メトロ 新宿3丁目駅



- ・東京駅 グランルーフ
- ・都営地下鉄
- ・京成電鉄

関西圏でも設置を強化

流通、観光、交通をキーワードにATMを拡充



その他グループ外の設置

金融機関との共同設置ATMや代替ATMとしての役割を追求

## ■ 営業を強化し更なる送金件数・収益増加を図る

### 非対面営業

当社HP、WEB広告やSNSを効果的に活用



### 海外送金カスタマーセンター

問い合わせに9言語で対応

- ・口座開設や送金の利用を個別にフォロー



### 海外送金利用シーン

ATM取引を9言語の画面で対応

- ・送金限度額、送金手数料の見直し、より使いやすく
- ・送金先の追加登録もWEBで完了

#### 《9言語対応のATM》



### 店舗・対面営業

有人店舗、各種イベントでの営業活動を継続



豊富な言語対応、ATMで送金できる利便性など、サービスの差別化を徹底

- FCTI単体では、14年度経常収益81.0百万米ドル、経常利益2.1百万米ドルと利益確保を計画
- 2013年9月にGlobal Access Corp.のATM事業を買収し営業基盤を強化
- インドネシア合弁会社設立は2014年6月を予定

## FCTI単体

(単位:百万米ドル)

	13年度 通期実績	14年度計画	
		通期	上期
経常収益	58.9	81.0	38.8
経常費用	58.6	78.8	38.1
経常利益	0.3	2.1	0.6
当期純利益	1.0	1.3	0.4
EBITDA	6.4	9.1	3.9

注1) 計数は全て表示単位未満切捨て

注2) EBITDA=経常利益+減価償却費・無形資産償却費+支払利息

## 主要計数計画

	12年度実績 (連結対象期間)	13年度実績	14年度計画
期末ATM設置台数(台)	2,542	7,176	7,493
うち自社保有(台)	2,542	5,126	5,403
総利用件数(百万件)	3.7	24.6	38.9

注1) 自社保有以外のATMは、ATM設置場所の所有者が保有している

注2) 2012年度の総利用件数は連結対象期間(2012年10月6日~2012年12月31日)のみ

■ FCTIの拠点分布状況

